

チョコレートは宝石？

和洋国府台女子中学校 一年 仲村 真菜

みなさんは、「チョコレート」という言葉を聞くと、何を考えますか。「甘くておいしい食べ物」や「バレンタインにあげるお菓子」など、まるで宝石のように売り場に並んでいるイメージを持つ人もいるかもしれません。しかし、今、その「チョコレート」にある危機が起きようとしています。私はその内容を知った時、思わず「えっ！」と口に出してしまいました。それは、数年後にはチョコレートがこの世からなくなってしまうかもしれないという内容でした。

どうしてチョコレートがなくなってしまうのでしょうか。一つ目の理由は、チョコレートの原料であるカカオの生産者にきちんと収入が入っていないからです。例えば、A社がカカオ豆を輸入するのにお金を払ったとします。カカオ豆がA社の手元に来る間には検査場や商社を通して来ます。それぞれが手数料や利益を必要とし、A社が払ったお金からどんどん引かれていくのです。また、その年の収穫状況によって収入は変わり、安定した生活を送ることができなくなります。

二つ目の理由は、カカオ豆の農園で児童労働が行われているからです。世界では、約十三万人の子供が働かされているといわれています。その原因は社会の慣習や文化背景、福祉制度の違いなどがありますが、多くの場合、「貧困」だと言われています。カカオ農園の場合も「貧困」が原因です。これらの状況からカカオ栽培を断念する人が多くなるということです。

今、取り上げた二つの問題は、SDGsの十番目の目標「人や国の不平等をなくそう」に大きく関わっています。「不平等と、児童労働とは関係ないんじゃない。」とか、「輸出量を増やせば、最初の値段からお金がたくさん引かれても問題ないんじゃない。」と思う人もいるかも知れません。しかし、チョコレートを作る企業は、利益を上げるために、安い値段でカカオを買い取るので、生産者が十分な収入を得ることができないのです。そのため、生産者の生活は苦しく、子供を働き手として出さざるを得なくなるのです。子供は大切な

教育の機会を逃してしまいます。また、収入は先ほども話したように低く、不安定な状態なので先進国との経済格差も大きく不平等な状態が続き、SDGsの十番目の目標と大きく関わってきているのです。

私たちは、この問題をボーッと見ているわけにはいきません。私たちにできることはたくさんあります。まずは、この問題にしっかりと目を向け、国や世界の取り組みを知ることが大切です。最近、世界で注目を浴びている「フェアトレード」という取り組みがあります。これは途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に取り引きし、生産者や労働者の生活改善や自立を目指す貿易の仕組みのことです。フェアトレードが広がると収入が安定したり、子供が学校に通えるようになるなどたくさんのいいことが起こります。フェアトレードには、値段が高くなってしまったり品質維持が難しいなどの難題も多くありますが、サステナブルな社会の実現を目指して、たくさんの企業が取り組んでいます。フェアトレードの商品には、緑と青のまが玉の形をした認証マークが付いていたり、パッケージの後ろに取り組みの内容が書かれていたりします。そういった商品を買うのがおすすめです。私もこの取り組みを知ってから、お菓子を買うときにはこのマークを探すようになりました。

みなさんも、この問題を考え、いっしょに行動して解決していきませんか。そうすれば、チョコレートはカカオ生産国の人々にとっても、私たち消費者にとっても宝石以上に本当に価値のあるものになることでしょう。